

授業概要

科目名	小児聴覚障害				授業の種類	演習	講師名					
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年	前期
【授業の目的・ねらい】 発達段階に応じた聴力検査方法を学び、聴覚障害を分類することができ、その原因を知る。 聴覚補償機器の利用や療育について学び、就学や家族支援について考える。												
【実務者経験】 岡山かなりや学園、まな星クリニックにて、言語聴覚士として小児の聴覚障害および発達障害分野の療育に従事する。												
【授業全体の内容の概要】 聴覚障害が小児期に及ぼす影響について理解できる。 聴覚障害の特徴や評価方法、療育に必要な基本的知識および国家試験に則した知識を身につける。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 小児を中心とした聴覚障害について学び、療育に必要な検査方法や指導方法が理解できる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	小児期の聴覚障害の概要と療育の考え方について理解できる。											
2	聴覚障害の評価方法について理解できる。											
3	聴覚障害について理解できる。											
4	聴覚障害のハイリスク因子、二次障害について理解できる。											
5	聴覚補償機器について理解できる。											
6	小児の指導・訓練（A. 小児聴覚障害の特徴 B. STの役割）を理解できる。											
7	小児の指導・訓練（C. コミュニケーションと言語習得 D. 聴覚活用と聴覚学習）を理解できる。											
8	小児の指導・訓練（E. 聴覚障害児の音声言語習得上の課題）を理解できる。											
9	小児の指導・訓練（F. リハビリテーションプログラムの立案）を理解できる。											
10	小児の指導・訓練（G. 子どもの発達段階と学習方法 H. 言語指導段階）を理解できる。											
11	小児の指導・訓練（I. 乳児期の指導：前言語的段階）を理解できる。											
12	小児の指導・訓練（J. 乳児期の指導：言語習得段階）を理解できる。											
13	小児の指導・訓練（K. 学童期の特徴）を理解できる。											
14	小児の指導・訓練（L. 学童期の指導）を理解できる。											
15	まとめ											
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』第3版 医学書院												
【準備学習・時間外学習】 授業前後に予習復習を行う。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。												